

【授業・教育内容について】

①教育課程について（中学校・高等学校）

②英語による授業について

③海外研修・留学について

④中高一貫教育について

①教育課程について

（中学校）

1	Q 学習指導要領に則った授業ですか。 ⇒ 学習指導要領に則って、授業を行います。
2	Q 英語に力を入れるようですが、他の教科のレベルはどのようにされますか。 ⇒ 理数系の科目は英語で学びます。すべての科目において、正答がいく通りにも可能になるような問題に取り組むことにより、既習の知識・技能・考え方を結び付け、自らの答えを発見していく過程から探究的学習に取り組みます。
3	Q ICT教育は実施されますか。 ⇒ 授業において情報リテラシーなどについて学ぶとともに、ICTを活用した教育を実践していきます。
4	Q プログラミング学習は実施しますか。 ⇒ 実施します。希望する生徒が多い場合は課外活動としても活動が可能です。
5	Q 専門分野を突き詰めて学習できますか。 ⇒ 中学校・高校1年生は共通の授業を履修しますが、高校2年生から各自の興味や関心に基づいて、3つのコースに分かれます。

（高等学校）

1	Q 国公立の医学部受験をめざすことはできますか。 ⇒ カリキュラム上はめざすことができます。英語については国公立大学の入試に十分対応できる学力をつけることができます。授業だけで不十分な部分については、補習等を実施します。
2	Q 高校2年から3年への進級時のコース変更は可能ですか。 ⇒ 原則できません。特別な事情がある場合は教員、生徒、保護者とで検討します。

②英語による授業について

1	Q どれぐらいの程度で中学校の数学、理科の授業が理解できていくのですか。どの程度サポートしてくれるのですか。 ⇒ 数学と理科の授業は、原則、日本人教員とのチームティーチングが中心になります。サポートは、EAL（クラス内外で生徒の英語運用能力を総合的に向上させることを目的とした英語指導助手）が理解度に合わせて、教科担当と共同し、サポートいたします。
---	---

2	<p>Q 授業についていけるか心配です。こういったケアをしてくれるのですか。</p> <p>⇒ 最初は英語で学ぶという足場作りをしてからEAL（クラス内外で生徒の英語運用能力を総合的にアップさせることを目的とした英語指導助手）が常駐し、皆さんの学習到達度をみながら指導していきます。もちろん各生徒の努力も必要になります。</p>
3	<p>Q 英語による授業となる数学・理科のテストは日本語で行うのですか、または英語ですか。</p> <p>⇒ 教科によって異なります。学年・内容に応じて日本語と併記をする場合もあります。</p>
4	<p>Q 英語は好きですが話すことはできず、自信はありません。大丈夫でしょうか。</p> <p>⇒ EAL（クラス内外で生徒の英語運用能力を総合的にアップさせることを目的とした英語指導助手）を始めとした教職員がサポートします。本校にはライブラリーにある洋書の授業活用、教職員の4割は英語ネイティブであるなど、英語を更に伸ばせる環境が整っています。英語が好きという気持ちを大切に継続して頂きたいと思います。</p>
5	<p>Q 卒業時にめざす英語力はどのくらいですか。</p> <p>⇒ 本校では高校卒業時にCEFR B2レベル（TOEFL・iBT72-94、英検準1級等）以上の英語運用能力の習得をめざしており、培った英語の力を最大限発揮し、様々な国公私立大学・海外大学への進学を視野に入れています。</p>

③海外研修・留学について

1	<p>Q 中学校の研修旅行（修学旅行）の行き先はどこですか。</p> <p>⇒ 中学校での修学旅行は研修旅行として実施し、行き先は国内を予定しています。1期生は徳島県を予定しておりました。（新型コロナウイルス感染予防のため中止）</p>
2	<p>Q 高校の研修旅行の行き先はどこですか。</p> <p>⇒ 高校では修学旅行ではなく、高校1年生の3月に国外への海外研修を実施する予定です。1期生は台湾を予定しておりました。（新型コロナウイルス感染予防のため中止）</p>
3	<p>Q 任意参加の海外語学研修とは何ですか。</p> <p>⇒ 毎年、夏休みに実施する、任意参加の海外プログラムです。初年度は語学研修やキャンプ活動などの活動を含む研修が、カナダやシンガポールで実施されました。また、海外大学見学ツアー等も企画予定です。費用については行き先等により変動しますが30万円～40万円程度です。</p>

④中高一貫教育について

1	<p>Q 学習進度は他の公立中学と同じですか。</p> <p>⇒ 原則としては同じですが、併設型中高一貫教育校のため、中学校において高等学校の学習を一部先取りする学習を行うことを予定しています。</p>
2	<p>Q 中学生と高校生との交流はあるのですか。</p> <p>⇒ 同じ敷地で学んでいますので日常の課外活動等での交流はもとより、学校行事を通じても交流があります。</p>
3	<p>Q 高校から入学した場合、中学校から入学している生徒との差を埋めるどのような工夫があるのですか。</p> <p>⇒ それぞれの生徒の状況を見ながら必要な指導を行います。必要に応じて補習や課題を課すなど工夫していきたいと考えています。</p>

令和2年6月
大阪市立水都国際中学校・高等学校